

【市民力を生かしたケアラー支援の取り組みについて】

介護サービスの利用抑制や、人材不足によるサービス事業所の閉鎖など、介護業界のマイナス要素が懸念される現状下で、介護の長期化、家族の減少、子世代の晩婚化や晩産化などが原因で、ケアラーが高齢の家族の世話をしながら育児や障がいのある家族のケアを担う状況が調布市内でも増加している。地域包括ケアの一層の充実が求められるが、行政の力だけで実現は難しく、市民との協働が不可欠。

特に「ケアラーが集える場の運営」は市民が担うのがふさわしいが、自然発生的には増えない。市でケアラーを支える市民ボランティアの養成と、集い場の提供を計画的に整備することを求める。

<答弁>

介護、看病、療育、心や身体に不調のある家族への気遣いなど、ケアの必要な家族や近親者、友人、知人などをまた、無償でケアする人をケアラーとして捉え、福祉3計画それぞれの取組に位置付け、ケアラー支援を展開している。

また、市の監理団体である公益財団法人調布ゆうあい福祉公社においても、先駆的な家族介護者向け支援の創出を掲げ、ケアラー支援に努めている。

ケアラー支援については、第8期調布市高齢者総合計画においても引き続き重点施策として位置付ける予定。ケアラー本人や支援団体等のニーズ把握に努め、効果的なケアラー支援を推進していく。